

第2回クロマツ・シンポジウム

主催者あいさつ

特定非営利活動法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会 理事長 砂山 弘

今日は、大変寒い中ですが、第2回のシンポジウムへお運び頂きまして、厚く感謝申し上げます。

秋田から象潟、本荘、生保内、仙台、内陸の山形、天童からもご参加頂き感謝しております。

第1回目のアンケートで強調された意見は、庄内海岸の砂防林は素晴らしいものなので、広く一般の市民の方に知って頂くべきということと、クロマツ林を市民一般の手で守り育て、親しんでいくという活動を続けていくべきという意見が大変多く、この今年1年は、頂いたアンケートのご意見を元に今日、お集まり頂きました皆様と共に活動をして来ました。



振り返ってみると、皆様から勉強させて頂きましたし、クロマツ林のすばらしさを実感しました。もし、クロマツの1本1本が言葉を発することが出来るとすれば、「今年1年皆様からお世話になりました」というお礼の言葉を言うと思います。

私どもが活動の中で一緒にやりたいと思っているのは、小・中・高校学校の生徒さんとの活動です。これから第1部で、湯野浜小学校、西荒瀬小学校、遊佐中学校からの活動の事例発表がありますが、他の土地の方々からの声では、庄内では、学生さんたちがクロマツ林に入って活動をしているのかということで、感激されます。

また、今年の活動の顕著な例としまして、海外からの評価が出てきたと言う事です。この件につきましては、第3部の冒頭に山形大学の農学部長の中島先生からご報告がありますが、海外から話が出るとは想像もできなかった事で、300年の歴史をもつ庄内砂丘砂防林は、歴史遺産にふさわしいものだと思います。

もう一つの新しい動きとしてペレットがあります。この件につきましては、第3部で櫛引の渡会電気土木の渡会社長さんからご報告があります。手前どもの会が平成13年11月に立ち上がったわけですが、初代会長の桜井輝夫は、庄内海岸のクロマツ林を永続して守り育てる為には、クロマツ自体に経済的な価値を与えなければならない、その為にはペレットによって、循環型社会に入っていかなければならない、というのが持論でした。会を立ち上げたときもペレットを研究しようという項目が入っていましたが、ここ2～3年疎遠になっておりました。

今回、渡会社長のかはらいによって、ペレットについて勉強し、再認識する機会を与えて頂いた事は、今回のシンポジウムでもありがたかったと思っています。

そういうわけで、来年以降というよりも、明日11月20日に飯森山で、「砂防林を育てよう」という活動があります。そういう物に引き継いで行って、この活動を生かして行きたいと思っています。色々な活動に皆様の協力を頂いているわけで、その様な協力に対して、改めて御礼を申し上げて、主催者側のあいさつとさせて頂きたいと思っております。本当にありがとうございました。